

第二外国語としての日本語教育に
ついての実践報告
—大同大学の日本語授業を例に—

李曼芝

大同大學基礎課程教育中心日文教學組主任

第二外國語としての日本語教育に ついでの実践報告

—大同大学の日本語授業を例に—

(有關第二外語之日語教育--以大同大學日語課程爲例)

李曼芝*

摘 要

日文組這幾年來最主要的三件工作爲編寫教材、輔導日文檢定及舉辦日本暑期遊學團。日文組每位老師平日付出相當大之努力授課外，更利用課餘時間不定期地爲了應因同學們的需求，增加許多時段，甚至寒暑假亦積極輔導準備參加檢定的同學，才能使本校日文檢定通過者逐漸增加，97 學年通過日文檢定 1 級(2 人)、2 級(10 人)、3 級(46 人)、4 級(62 人)。此實踐報告主旨在敘述本組的現況、成果及未來的展望，期待各位先進的指教，使本組能繼續朝更佳之方向前進，以提昇最大之日語學習成效。

【關鍵詞】

日文檢定，編寫教材，暑期遊學團，未來展望，日語學習成效。

* 大同大學基礎課程教育中心日文教學組講師兼主任。

Regarding Japanese Education as a second language ---Illustration of the Japanese courses of Tatung University

Man-Chih Li*

ABSTRACT

The three major tasks of the Japanese department in most recent years are: edit and compose teaching materials, assist students for Japanese Qualification Exam and held the Japanese study tour abroad for students during summer vacation.

Every teacher in Japanese Department not only pay their best effort to teach , but spend lots of their after work hours, including summer and winter vacation, to help students' need for preparation of the Japanese Qualification Exam. That's the reason why our students pass the Japanese Qualification Exam dramatically increased every year. In 2008 academic year, there are 2 students passed first class, 10 students passed second class, 46 students passed the third class, 62 students passed the fourth class of Japanese Qualification exam. We are so proud of those students and appreciated the efforts of our teachers.

I, myself, acted as the director of the Japanese department since August, 2006. The purpose of this report is making description of the teaching performance, satisfactory results and the prospective future.

I'm expecting for your kind advice and encouragement because it can lead our department toward a more successful way and can obtain a more achievement of Japanese study.

【Key word】

Japanese Qualification Exam, edit and compose teaching materials study tour abroad during summer vacation , the prospective future the achievement of Japanese study

* Lecturer, Director of Japanese Section, Core Curriculum Education Center, Tatung University.

1. はじめに

本校は学校創立以来、かなり語学教育を重視している。学生が専門領域以外、言語能力を身につけ、将来就職にあたる際に社会競争力を高めていくことができるのを望んでいる。日文組はここ数年最も重要な仕事は教材開発、日本語能力試験の指導及び夏季研修団の主催である。日文組の先生方は日ごろ全力をつくし、授業をするほか、更に不定期的に課外時間を利用し、学生のニーズに応じ、まして夏休みか冬休みにも日本語能力試験を受ける学生のために積極的に補導している。それで、本校の日本語能力試験に合格した人数はじょじょに増えてきている。97年に合格した1級の者は2人、2級は10人、3級は40人、4級は62人に達している。

日文組は教学成果を高めるためには、98年2月に「大同大学日語抵修學分與獎學金相關辦法」を修正した。又、本教学組は毎年夏休みに仏光人間大学とともに2週間の日本研修を行うことにしている。それは学生が実際に会話能力を高め、もっと日本文化に対する理解を深め、そして国際視野を広げていくことを目的としている。

同時に本校は日本語能力試験に合格した学生に手厚い奨学金を与え、97学年にこの奨学金を受ける者は120人に達している。この奨学金制度は本校の最も特色の一つともなっている。そのほか、本教学組は長年理工学科に適した日本語教材を開発し、もっと優れた教学品質及び学習成果を高めようとしている。95年まですでに続々と新理工学部のための日本語第一冊、第二冊、第三冊が出版されていて、第四冊は98年8月に出版する予定である。本教材は練習の部分には能力試験のパターンがついていて、大幅に試験を受ける学生の能力を高めることができる。

2. 日本語能力試験の成績

全面的に学生の日本語の学習成果を高めるために、97学年より入学した本校の学生は「校内日本語能力試験」或いは「校外日本語能力試験」に合格すれば、本校が規定している日本語の卒業ルールに達すると言える。校内能力試験の成績は400点が満点で、200点をとらなければならないという日本語の卒業ルールがある。96学年にはすでに二年生の6クラス(311人)を対象として試みに行って、162人は合格したという結果がわかりました。合格率は55%であり、予想していた50%に近かった。その中の2クラスは本人が担当しているクラスで、学生の成績は以下の表に示されている。

クラス 点数	グレード	D2A(53人)	M2A(60人)
350～400点	A+	9人	0人
300～349点	A	23人	7人
270～299点	B+	7人	12人
240～269点	B	34人	18人
220～239点	C+	2人	10人
200～219点	C	3人	4人
180～199点	D+	2人	5人
160～179点	D	2人	1人
159以下	E	1人	3人

ここで日文組の先生方のご協力によって、一回目の校内日本語能力試験が順序に完成できた。これからは成績の優れた学生はもっと日本語の勉強に取り組んで、校外の能力試験を受ける目標に向け、証明書をとるよう、がんばっていくことを望んでいる。96学年より校外能力試験に合格した者は学校から励ましとして1300元の申し込み代が補助される。

今後文字・語彙、文法・読解及び聴解の三つの部分についての成績をもっと詳しく分析し、授業をする時の参考にする。

3・アンケート調査

日文組は長年本校の先生に適した教材を開発しつづけている。今使われているのは三代目という新教材である。それで、学生が日本語コースに対する学習状況などにもっと理解しようとし、このアンケート調査を行った。

調査期日：2007年10月20日～28日

調査対象：インダストリアル・デザイン学科二年生53人、機械学科二年生60人

調査項目：以下の五つの設問

(1) 今の教材に満足していますか。

満足	普通	不満足
80人	16人	2人

- (2) 日本語の勉強で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことにおいて、一番難しいと思われるのは何ですか。また今後どのようにして上手になれると思いますか。

この設問に対し、聞くことと話すことは最も難しいと答えた割合が一番多かった。それを強めたいという方法は以下のように述べられている。

聞く方面：・テキストのCDをよく聞くこと、日本のドラマやアニメをよく見ること

- ・直接日本人と話し合うこと
- ・日本語の単語を暗記し、方法を強めること

話す方面：・日本に一年住むこと

- ・日本人とよくおしゃべりすること
- ・会話クラスに参加しよく口に出すこと

読む方面：動詞変化、センテンスの分析を強めること

書く方面：よく単語を覚え、文法を理解し文章を書くのを練習すること

- (3) 卒業するまでに校外の日本語能力試験を受ける意欲がありますか。それはあなたにとって何の意義がありますか。

この質問に対し、半分以上の学生は受けると言っている。その理由は次のように挙げられています。

- ・自分の日本語能力が高められ、実力の証明ともなる
- ・証明書をとり、職場での付加価値となる
- ・留学する（4人）
- ・日本への旅行

- (4) どのように日本語を習う興味がひきあげられますか。

- ・日本のドラマや日本の歌によく接すること
- ・日本文化にもっと理解すること
- ・日本方面のインフォメーションを吸収すること

- (5) 今後日本語授業をよりよくするために何かアドバイスがありますか。

- ・聴解練習を多くふやすこと
- ・文法方面に関する比較をもっと詳しく補充すること
- ・教科書以外漫画も少し提供してもらうこと

わたしは今後学生のフィードバックに応え以下の点を改善していきたい。

- ・「剖析日能測驗 3 級文法」を取り入れ、もっと詳しく文法解説に重きをおき、よりよい内容にしていく。
- ・「朝日小学生新聞」或いは漫画といった活発で生き生とした短文をプリントとします。学生に日常生活における言語環境に取り込むような興味をやしな

わせようとする。

4、協同教学講座

当校 97 学年度に教育部の「教学卓越計画」の補助によって、日文組は「協同教学講座」を企画し、淡江大学、文化大学の教授及び卒業生を招いて講演することになっている。今回の協同教学講座は学生間において、大きな反響を呼び、極めて好評を博しています。下記のように学生の感想文を二篇掲載する。

(一) 以前テレビ「チビ丸子ちゃん」というアニメで見た俳句は単なる文字の組み合わせにすぎないと思っていましたが、今回の講演を通して、俳句への理解を一層深めて、大変勉強になりました。俳句は世界で一番短い詩と言われています。又季節感を出すために、「季語」も俳句には欠かせない重要な要素となっています。例は「柿」で、冬の「季語」は「雪」です。先生の興味深いご紹介によって、松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶、服部嵐雪などという有名な俳人を知るようになり、かなり日本文化への認識のためになりました。又俳句の春夏秋冬という四季の移り変わりに合わせて、先生も有名な日本の童謡をご紹介くださり、一段と日本語への興味をそそられ、その日の充実さがつくづく感じられました。

このように日本文化講演えお通して、学生の日本語への興味を引き起こすことができる外、学生自身も自主性学習の意欲も自ら湧いてくるのではないかと思います。今後ともこのような有意義な日本文か講座を大いに開催することを心より願っています。(E2A 陳青韻)

(二) 今回の講演を通して、太宰治という日本近代文壇の巨匠という存在を知りました。太宰治は5回も自殺したとはいうものの、精神的苦痛に打ちのめされずに、創作活動に励んできた姿に感心させられました。太宰治が文学によって、人生の鬱憤、切なさ、哀れなどという人間の共通感情を淡々と行間に述べて、それは国境を越えて、どの人の心にも響くのではないかと思います。又中国文学と一味違った『人間失格』、『斜陽』という時代を反映した長篇小説は今でもベストセラーとして、日本人に愛読されており、たいしたものだと思います。

今回の講演によって、日本文化に対する認識を更に深め、日本語への興味を一際そそられ、良い勉強になりました。(I1A 楊琇惠)

検討

(1) 講演者は各専門分野において、日本文化及び日本文学をご紹介くださり、学生たちの日本語に対する興味をそそられ、日本語学習の原動力となった。

(2) アンケート調査によって、下記のような結果が出ている。

「今後この講座を続けてほしい」という設問について、「極めて賛同」は29名、「賛同」は13名、「普通」は6名、「賛同しない」は1名である。

このように日本文化関連の講座を開催することによって、日本語学習者に良い影響が与えられるという顕著な成果をあげている。

従って、日文組は今後ともこのような「協同教学講座」の開催を続けてゆきたい。

5、おわりに

本校は英語・日本語の能力を強めるという特色が掲げられている。今後もっと積極的具体的にやるためには、以下のようなやり方が挙げられている。

(1) 本校の大学部の日本語卒業ルール及び指導方法の制定

97学年より入学した本校の大学部は在学中以下のいずれにも合格したら、日本語卒業ルールに合っている。

[校外日本語能力試験]

(日本) 財団法人「日本国際教育協会」日本語能力試験4級(含む)以上
(台湾) 財団法人「日本国際教育協会」日本語能力試験4級(含む)以上

[校内日本語能力試験]

二年生の第二学期中間テスト及び期末試験に校内の日本語能力試験を行い、三年生の試験時間は別に知らせる。本校の学生は三年生の夏休みが終わる前に、日本語能力試験に合格しなかった者は四年生の時「言語試験補助教学」を受けなければならない。このコースの成績は60点を取ったら、合格でき、日本語卒業ルールに合うことになる。

(2) 校外の日本語能力試験についての奨励及び補助

学生が校外の日本語能力試験を受け、ライセンスが取れるように奨励するのは卒業後職場での競争力を高める目的です。それに対し合格した者にそれぞれ以下の奨学金が与えられる措置がある。

1級(1万元)、2級(5千元)、3級(2千元)、4級(1千3百元)

(3) 日本語能力試験の指導教学の開設

今後もっと学生が能力試験の合格率を高めようとするために、日文組の先生方は更に冬休みと夏休みを利用し、積極的に「輔導班」を開設し、授業を受ける意欲のある学生はもっと効率的持続的にその日本語能力の実力を高められようとする。

(4) 各種のイベントを行うこと

不定期的にたとえば、日本語の朗読、日本のカラオケ、日本語の単語といった試合を行い、学生の学習動機を刺激し、並びにその学習成果を繰り広げる。そのほか、日本天理大学の学生を招き、本校の学生と座談会を開き、いきいきとした日本語学習環境をもたらしようとして企画している。

